

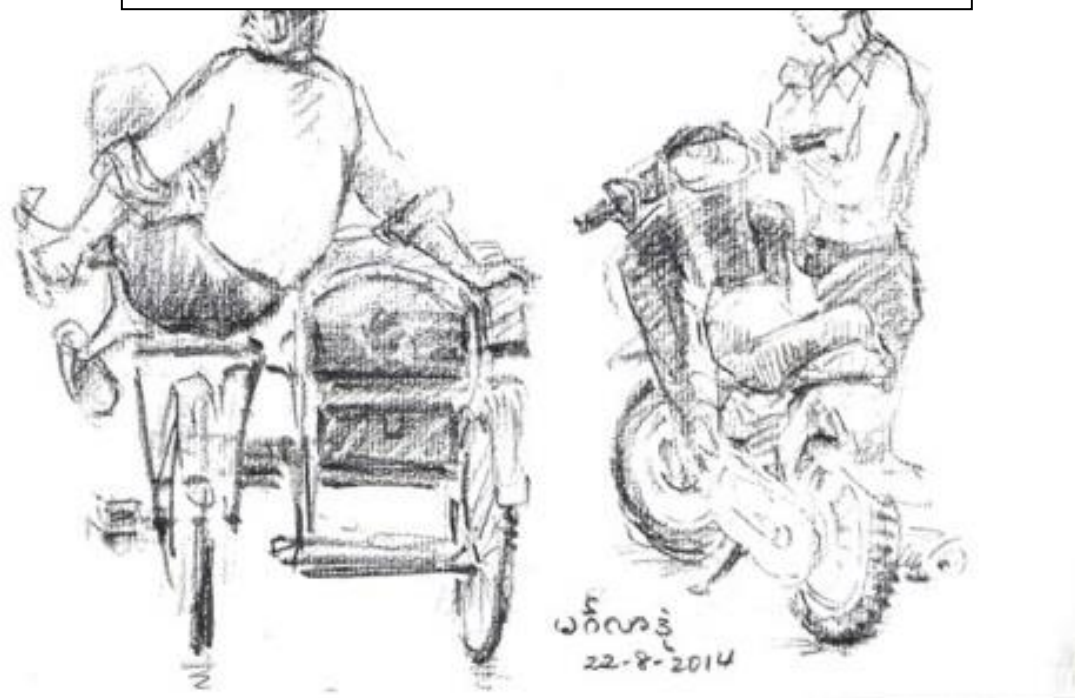
ヤンゴン素描 33

ミンガラードン駅

山形洋一

環状線の北東隅にあるこの駅は、かつて兵営に隣接する戦略駅だった。
ここで夜を明かす始発列車があるのはその名残りだろう。

図：ミンガラードン駅前で客を待つサイカーとオートバイ



1928年にラングーンの町が拡張され、それまでシュエダゴンに置かれていた軍の兵営がこの地に遷され、Cantonment（兵営）駅と呼ばれた。当時「ミンガラードン」の名はいまのダニンゴン駅に用いられていた。その名がいつ、いかなる事情で東に移されたのか、寡聞にして知らない。どなたかご存知ないだろうか。

「兵營」駅の当初の位置は、現ミンガラードン駅の南西約1キロメートルにあった。駅に隣接して武器庫 (Arsenal) が置かれ、有事の際には将兵があわただしく動いた様子が想像される。さびれた営門の奥には郵便局、総合病院、婦人病院、教会、高等学校などがある。ジョーピュー上水パイプラインに向かう道には「ブダヨン (駅) 通り」の名前が残っている。

道路輸送が主流になると軍は鉄道を必要としなくなり、国際空港の滑走路拡張にともない、飛行機の進入路にあたるミンガラードン駅は東に移された。今では閑散としているが、かつてインセインにつぐ軍事輸送の拠点だった慣習で、今でもここ始発の列車や、ここで折り返す列車が何本かある。内回り (時計回り) で到着した列車が、そのままの位置から外回り (時計回り) に出るとき、「折り返し」と書かれた札が駅舎に掛けられるのは、この駅ならではの風景だ。

インセインのように車庫や車両整備施設があるわけではなく、連結作業の作業員は線路に降り立ち、斧のような形の連結用フックを対抗車両の連結器の溝に落とし込み、ナットを回してボルトで突っ張り、ゆるみを防ぐ様子が、青空の下、空苺菜の水田を背景に展開される。

駅の近くの水田地帯に豪邸がよきによき建ちはじめているのは、軍の上層部の家だろうか。そこに住む人たちはみな自家用車を持ち、鉄道を利用することはなさそうだ。

軍基地の玄関は駅とは反対の西の大通りにあり、その近くに「ミンガラードン」バス停がある。駅からバス停にはバイクの後ろ乗りサービスがある。サイカーも何台か止まっているが、なぜかミンガラードン町のナンバープレートをつけたものは少なく、北オカラパ・ナンバーや番号なしのものが多く。

汽車の旅に飽きた人は駅から西に出て、51番系統のバスに乗れば、市街地まで直行できる。(了)